「対話と信頼関係を基本に」

枕崎市長　瀬戸口 嘉昭

市民の皆様、こんにちは。

今回の市長選挙におきまして、市長の重責を与えていただきました。市民の皆様の負託と信頼をそこなわないよう、誠心誠意、努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

私は、長年、枕崎を離れ、県内各地で教職の道を歩んでまいりました。その間、昭和57年から16年間、県教育委員会に勤務し、県教職員課長、教育次長として、さまざまな経験と多くの方々を知り得たことは私の財産と思っております。

この時代に、枕崎高校が県下第一号の総合学科として生まれ変わる時に尽力できました。

また、これらの経験によって、外から枕崎市を客観的に見ることができたと思っております。

昨年、父は亡くなり、現在、母と妻の3人で、妙見町の自宅で暮らしておりますが、両親の介護を通して、福祉の大切さや心の温かさ、助け合う心の大切さなど、身をもって経験し、十分理解しているつもりです。

さて、現在、日本は少子化が深刻な問題となっています。枕崎市の人口も十数年後には2万人を割ると予想されています。国も少子化対策に力を入れていますが、枕崎も、次の世代を担う若者が安心して子供を生み育てられる魅力あるまちづくりに取り組まなければなりません。

そのためには、しっかりとした経済基盤の確立、とりわけ地場産業の活性化を図り、経済の安定と雇用の確保は重要な課題であります。そのために、同じような産業基盤を持つ地域で大同団結することで、一定の人口を有する財政的にも十分な体力のあるまちづくりをしなければなりません。その手段が市町合併であり、その実現に全力を尽くしてまいります。

このためにも、また、枕崎市の財政の危機的な状況を回避するためにも、私を先頭に、市職員一丸となって行財政改革の徹底を図ってまいります。その決意を示すために、市長報酬の削減をはじめ、収入役や市長公用車の廃止などを実施することとしているところであります。

今後、これらの改革や市の重要な施策の執行に当たっては、市民の皆様の代表である議会のご理解とご協力を得ながら、対話と信頼関係を基本として取り組んでまいります。

地域の発展を願う市民の皆様、特に、次世代を担う若者の前向きなご意見、ご提言をお聞かせください。お待ちしております。

市民の皆様のご健勝をお祈りして、就任のごあいさつとします。

任期満了に伴う枕崎市長選挙が1月25日行われ、即日開票の結果、瀬戸口嘉昭氏が初当選しました。

神園市長退任のあいさつ

（1月25日、議事堂で行われた退任式のあいさつから抜粋）

先ほど最後の決裁を終え、そして自分の机の上にずっと置いてありました「引き際を考える　志いかに貫くか」という紙片をポケットにしまいこんで、ここに出てきました。

一期4年間の最後のあいさつであります。そしてまた、今日も原稿なし、メモなしのあいさつになります。落ち着いて原稿を書く間もない、メモを取る余裕もない、とにかく走り続けた4年間だったと思います。走りながら考える4年間でした。

私は、初めて当選させていただいた選挙の立候補表明を5月27日に定めました。それはかつての海軍記念日です。海軍記念日とは日露大戦争において、東郷平八郎率いる弱小の日本海軍がロシアのバルチック艦隊を撃破した日です。私は議員時代から市長に就任しても、バルチック艦隊にたとえられるような財政の問題をはじめ幾つもの難題が山積していることが分かっておりましたから、あえてその日を立候補の表明の日に選び、たとえこの身が玉砕しようとも、バルチック艦隊と戦う決意を固めていたわけです。

そして振り返ってみて積み残したものもありますが、いろいろとなんとか安堵できる形にもっていったものもあろうかと思います。例えば枕崎空港に関する収支は間違いなくあと2、3年は黒字が出るでありましょう。それほどの布石は打ったつもりです。

心残りは子供たちの命にかかわる施設である学校給食センターをPFIでやろうとしましたが建設できなかったこと。そしてまた刑務所誘致の問題です。これも皆さんご存知の過程を経てご存知の結果に終わったのは誠に残念です。

今の時代、他人の力を当てにしていても地方は蘇りません。これは私の確固たる信念です。私は就任以来、合併してもしなくても行財政改革は避けられないことを申し上げてきました。合併がだめだというのではありません。しかし、どういう状態になろうとも行財政改革は避けられないわけです。

また、今や地域社会は人口減や高齢化の問題から、本来、地域が持っている伝統とか文化も崩壊しつつあります。

それを防ぐには共生協働の理念が普及し共有化される、平たく言うと自助・自立の意志を持つ真の自治能力が高まることも絶対的に必要です。そのために今の自治組織間の連携、再編にまで踏み込むべきです。

賢明なる皆さんですから、その辺のところまで考えて、どうか、この誇りある枕崎を蘇らせてほしいと思います。

私も今日で役所をあとにしますが、また何らかの形で誇りある枕崎を保つために微力を尽くしたいと思います。皆さんの健康を祈ります。ありがとうございました。

市民の皆様、ありがとうございました。

前市長　神園　征 氏

前助役
中村 均光 氏

平成14年5月に助役を拝命し、微力ながら枕崎市の市政運営に携わる機会を戴いたことは私にとりこの上なく貴重で、且つ有難いことでした。

国・地方における少子・高齢化の進展や財政逼迫という状況は、わが枕崎市にもあてはまります。この4年間、財政基盤を強固にし、よりよい住民サービスの提供を目指して、神園市長以下市職員一丸となって行財政改革に取り組んで参りました。道、いまだ半ば、の感じですが種々の困難を乗り越えてこの改革が成し遂げられ、枕崎が今まで以上に力強く蘇ることを信じています。

そして青い海、緑なす山々、朝日に輝く開聞岳、夕日に映える立神岩、こうした美しい自然に囲まれた我らがふるさと枕崎の限りない発展と市民の皆さんのご多幸を心から祈念しております。

前収入役
浜田 雄二 氏

早春の候、市民の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

私こと、1月25日付をもちまして、収入役を退任いたしました。就任して以来3年10か月間ではありましたが、この間、多くの方々から温かいご指導、ご高配を賜り誠にありがとうございました。

顧みます時、本市の逼迫した財政状況をはじめ、行財政改革、少子高齢化対策、市町合併など難しい課題が山積する大変厳しい情勢の中で行政に携わり、ここに、無事職務を全うし、退任の日を迎えることができましたことを心から感謝申し上げます。

一般職時代から通算して39年間の公務員生活を終えることになりましたが、これからは一市民として、枕崎市の限りなき発展のため、陰ながら応援してまいります。市民の皆様方のますますのご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げ、退任のあいさつといたします。